

End of Result Set

 Generate Collection

L31: Entry 16 of 16

File: DWPI

Oct 29, 1973

DERWENT-ACC-NO: 1984-013549

DERWENT-WEEK: 198403

COPYRIGHT 2002 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Concentrating bamboo-shoot extract - to obtain solid with anticancer fungicidal and bactericidal activity

PATENT-ASSIGNEE:

| ASSIGNEE | CODE |
|------------|-------|
| TSUCHIYA T | TSUCI |

PRIORITY-DATA: 1972JP-0010092 (January 27, 1972)

PATENT-FAMILY:

| PUB-NO | PUB-DATE | LANGUAGE | PAGES | MAIN-IPC |
|---------------|------------------|----------|-------|----------|
| JP 48080710 A | October 29, 1973 | | 002 | |

APPLICATION-DATA:

| PUB-NO | APPL-DATE | APPL-NO | DESCRIPTOR |
|-------------|------------------|----------------|------------|
| JP48080710A | January 27, 1972 | 1972JP-0010092 | |

INT-CL (IPC): A61K 0/01

ABSTRACTED-PUB-NO: JP48080710A

BASIC-ABSTRACT:

Concn. of excellent fungicidal, bactericidal and carcinostatic substances obtd. from bamboo leaf extracts, extracted with organic solvent (pref. containing polar group) is claimed. The solvent is removed from the extract by distn.; (another) solvent is added to the residue, cooled as such or after heating; or any insoluble substances are removed while hot to obtain a hot transparent soln. The cooled soln. separates into solid which is then collected. The solid is opt. decolorised and purified.

Solid substance obtd. from bamboo leaves has excellent fungicidal and bactericidal effects. Rice cake contg. 0.1% solid substance did not become mouldy after being left for one month in the winter.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

TITLE- TERMS: CONCENTRATE BAMBOO SHOOT EXTRACT OBTAIN SOLID ANTICANCER FUNGICIDE BACTERIA ACTIVE

DERWENT-CLASS: B04 C03

CPI-CODES: B04-A07F; B12-A01; B12-A02; B12-G07; C04-A07F; C12-A01; C12-A02; C12-G07;

CHEMICAL-CODES:

Chemical Indexing M1 *01*
Fragmentation Code
M423 M720 M781 M903 N161 P220 P241 P633 V400 V406

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1984-005643



(特許法第36条第1項の
規定による特許公報)

特 許 書

昭和47年1月27日

特許庁長官 井 土 武 久 敏

1. 発明の名称 管類の葉より優れた防黴、滅菌並びに制ガン作用を有する物質の調節法

2. 特許請求範囲に記載された発明の数 2件

3. 発明者 出願人に同じ

4. 特許出願人住所 郵便番号 156

東京都世田谷区桜上水4-1-8-101

氏名 王 廉 知太郎

5. 添附書類目録

明細書 1通

願書副本 1通

明 細 書

発明の名称 管類の葉より優れた防黴滅菌並びに制ガン作用を有する物質の調節法

発明の詳細なる説明

本発明者は管類の葉を有機溶媒(特に極性基をもつもの)で抽出し、抽出物より溶媒を蒸溜除去し、残留物に溶媒を加え、そのまま又は加温したのち冷却し、或は熱時不溶性物質があればこれを除去して熱時透明な溶液を冷却し固体部を分別採取する。この物質(固体部)は優れた防黴、滅菌効果を有することを知つた。即ち上記の固体物質を先づ少量の搾き立てのモチに添加しよく混和したのち新たにモチを加えてよく混和し、結局上記の固体物質0.1%を含むものを調製した。このものは冬季1ヶ月経過しても黴を生じなかつたが、添加しないものは4日経過後毛のよう細長い黴を生じ、9日後には黒黴と黄黴を多量に発生した。またテルペン油に固体物質0.1%を添加し、これを水虫による患部に塗布するとカニミもとまり、短時日で患部は乾き治癒した。実験中ではあるがガンの治療にも効果がある。

この固体部は漫緑色を呈しているがさらに溶媒精製、吸着剤処理クロマト分別、イオン交換樹脂処理等によつてさらに純度を高めることができる。活性炭で脱色し溶媒から再結晶

⑯ 日本国特許庁

公開特許公報

⑪特開昭 48 80710

⑭公開日 昭48.(1973)10.29

⑮特願昭 47-10092

⑯出願日 昭47.(1972)1.27

審査請求 未請求 (全2頁)

序内整理番号 ⑯日本分類

6224 44 30 A1

6224 44 30 A31

したものは白色結晶で、微量で非常に効果があつた。

搾き立てのモチをとり、管の葉を粉末にしたもの約1%を添加したものと、添加しないものをとり、これを同一の容器に入れ19℃内外に放置すると添加しないものは4日後毛のよう黴を多量に発生し9日後には黒黴と黄黴とを多量に発生したが、添加したものは1ヶ月後にも何等黴の発生を認めなかつた。また管の葉の有機溶媒抽出物そのまゝでも試験したが同様な効果があつた。

本方法の実施にあたり、分散、乳化等をよくするため無害な増量剤、界面活性剤等を加えても差支えない。

次に実施例を示す。

実 施 例

冬季室温で約1週間風乾して得た管の葉を細片し92%をベンゾールで抽出し室温15℃で漫緑褐色軟固体の物質約5gを得た。このものにアセトン2.5mlを加え30分間還流加熱し、熱時すばやく口別し、口紙上の不溶部は熱アセトン2.0mlにて洗滌し、口液及び洗液は合し水を加えてアセトンを約80mlアセトンとなし、加熱し透明な液となした後、0℃にて1晩冷却し析出物を得た。収量約1.1gこの物質は上記のよう防黴、滅菌並びに制ガン作用を有していた。これを活性炭で脱色し溶媒から再結晶したものは白色結晶をなし微量で上記の効果を一層よく表わした。

熊笹の葉以外のものも同様な効果があつた。

特許請求範囲

(1) 本文に詳記したように笹類の葉を有機溶媒（特に極性基をもつもの）で抽出し、抽出物より溶媒を蒸留除去し、残留物に溶媒を加え、そのまま又は加温したのち冷却し或は熱時不溶性物質を除去し熱時透明な溶液をとり冷却し固体部を分取するか或はさらにこれを脱色精製することを特徴とする笹類の葉より優れた防黴、滅菌並びに制ガン作用を有する物質の浸錠法。

(2) 本文に詳記したように笹類の葉を粉末にしたもの又はこれらの有機溶媒抽出物を添加することを特徴とする防黴、滅菌制ガン法。